

## 女性パート労働者の労働と生活にみる社会医学的問題点について

広瀬俊雄、多田由美子  
仙台錦町診療所・産業医学センター

980-0012 仙台市青葉区錦町 1-8-32 sanjo@rb3.so-net.ne.jp

はじめに

今年 6 月 12 日の朝日新聞朝刊の声の欄に「24 時間の店で深夜働く主婦」という投書が掲載されている。投書者は 37 歳の女性パートであるが、24 時間営業に変わった際の深夜勤務者募集への応募者のほとんどが乳児・幼児、小学生のいる主婦だったと書いている。勤務内容は、徹夜勤務が週 3 日でその収入は、年金保険料、介護保険料合計とほぼ同額だそうである。投稿主は、最後に「深夜、母親の居ない家で寝ている子供たち、・・・それが現実です」で終わっている。

我々はこの投稿内容に類似する労働内容と生活に関して、この 10 数年ある生協でのパートで深夜に働く女性の健康実態と共に生活の実情を明らかにしてきた。夜勤の健康影響を軽視する主張も多い中で、投稿にあるように生活内容への重大な影響にも着目してきた。そうした内容を報告する。又、パートでありながら正規職員削減政策の中で重責を負いつつ奮闘するパート労働者の実態とその問題点についても合わせて報告する。

惣菜工場で働く女子パート労働者の夜勤労働継続による生活への影響、犠牲的対応

我々は約 10 年来、ある惣菜工場で週 5 日働く女子労働者の夜勤者健診を進めてきている<sup>1-6)</sup>。労働安全衛生法で規定されている通常の項目の他 24 時間血圧記録(以下 A B P M)、24 時間心電図(Holter ECG)もおおよそ交互に(前回問題がある場合は同じ項目を繰り返したり、2 つの検査を共に実施することもある)実施している。この工場での勤務の基本シフトは当初は全員が早朝 5 時から 4 時間の勤務であったが、男女雇用機会均等法と労働基準法の改定後に全員が 3 時から 4 時間の勤務に変更された。新たな採用は日勤者又は無職の方を直接 3 時開始の勤務者として募集している。更に、3 時開始の労働者の内、半数が 0 時開始の

勤務と変化した。全てが 3 時開始の勤務であった時の夜勤者健診での A B P M の成績では、1 日平均血圧では約半数が境界域以上の異常であった。その時点で 1 人を除き子育てをしつつ夜勤を続けているわけであるが、女性パート労働者が夜勤継続がどういう生活上の変化を生んでいるか、言い換えれば、どうい生活変化(犠牲)が夜勤を継続させ得ているかという調査を施行した<sup>7, 8, 9)</sup>。

調査は 2000 年秋の夜勤者健診を受診した 40 名の女性パート労働者を対象とし、健診時に直接ヒアリングにて聴取した。質問項目は 1978 年に日本産業衛生学会夜勤交替制委員会が検討した生活項目を基本とし休養(3)、食事(8)、運動(4)、団楽(2)、趣味(3)、付き合い(5)役員(1)等とした。( )内の数字は細項目である。各労働者毎に労働時間のシフトの変更の前後の変化について上記の各項目について、「減らす(悪くする)方向か?」「増やす(良くする)方向か?」「同じか?」「判定困難か?」を問うた。回答者数は、無職又は日勤から 5 時開始に変わった人々(以下 A 群)16 人、無職又は日勤から 3 時開始に変わった人々(以下 B 群)21 人、5 時開始のシフトから 3 時開始のシフトに変わった人々(以下 C 群)15 人、3 時開始のシフトから 0 時開始のシフトに変わった人々(以下 D 群)12 人であった。同じ労働者は最大 3 回勤務時間を変更しているため回答回数も最大 3 回である。結果の概要以下の如くである。

「健康状態の悪化」は、D 群で 4 割、B、C 群で 3 割強、「疲労、疲労回復悪化」は、D 群 4 割強、B 群 6 割強、C 群 3 割強に見られた。

「睡眠状態」の変化では、「時間減少」が D 群 6 割強、A、B、C 群が 3 割前後、に対し「睡眠の深さが増した」が A、B、D 群で 7 割前後、C 群でも 5 割に見られ「睡眠時間減少」を大きく上回った。

生活内容の変化 では、どの群でも 3 割以上の労働者が制限しているのは、「休養」「食事」関係であっ

た。制限する項目の多いのは、A群、D群であり、その変化では生活上の対応がより強く余儀なくされていることが示された。

このように、より深夜帯の時間から働くことは、健康状態や疲労回復に影響しているが、それでも夜勤が続いているのには、出来るだけ睡眠時間は減らさず、睡眠の深さを得る工夫をしていること、更にその上に、食事の質を落としたり、家族との食事回数や団楽の機会を減らし、運動や趣味の他、付き合いや学校、地域の役員として活動等の社会的な活動を減らして等悪戦苦闘している姿が浮かび上がってきた。

#### 惣菜工場で深夜に働く女子パート労働者における疲労と睡眠障害

先の報告において「睡眠の量・質の確保」が健康を何とか維持して夜勤継続出来る一つの条件であることが知れたので、更にその点に関する調査を2002年春の夜勤者健診において実施した。対象は29名で3時から働く者（以下3時から群）13名と3時以前から働く者（以下3時前群）16名を比較して検討した。年齢はそれぞれ $49.2 \pm 7.4$ 歳、 $46.4 \pm 8.1$ 歳、夜勤経験年数が $7.2 \pm 3.2$ 歳、 $8.4 \pm 4$ 歳で両群間に統計的な有意の差は無かった。日本産業衛生学会産業疲労研究会による「新疲労調査項目（2002年）」を用いて両群の疲労状態の比較を進めた。25項目のスコア合計では両群に差は無かったが、3時前群において「足がだるい」「肩こり」の該当率が3時群より有意に多かった。尚、両群合計で夜勤後に増加する項目は「横になりたい」「頭ぼんやり」「全身倦怠感」「足がだるい」「あくびが出る」の5項目であった。ピッツバーグ質問表による睡眠困難（過去1ヶ月）の頻度では、「あり」は3時から群8人（61.5%）、3時前群11人（68.8%）で有意の差は無かった。「生活に支障有り」は、5人（38.5%）、8人（50%）で3時前群において少し高率であったが統計上有意には至っていなかった。エップワース睡眠尺度による眠気尺度では、全項目で人数補正した該当数、総スコア共に3時前群が上回った。個々の項目では「読書中」「車中」「運転時」で有意差は無かったが3時前群が大きかった<sup>8,9)</sup>。

#### ストレス調査にみる女子パート労働者の健康実態と背景

我々は1997年にJCQとNIOSH計316項目からなる調査を定期健診時に実施したが、パート労働者では正規職員の約6割に対し約8割と高率の回収を得た。1997

年での結果では、工場の製造ラインの労働者では事務や店舗内労働者に比して「職務満足度が低い」「量的労働負荷が大」「技能の低活用」「上司の支援不足」がみられた。夜勤帯を主とする高密度の労働の特徴が出た結果を得た。調査開始後2年半を経た時点での診断書における特徴では「筋骨格系群」は、休業の診断書が無い者（対照群）に比して「仕事のコントロールが低く」、「胃潰瘍・大腸炎群」ではそれに加えて「労働負荷大」という傾向にあった<sup>10,11)</sup>。

2002年にはNIOSHとJCQから項目を選択すると共に努力報酬不均衡調査項目（ERI）を加えて調査した。2回目の調査の回収率は9割を超えている。その結果、労働時間が長い群程ストレスの面で問題があり、8時間以上の群が特に目立っている。未婚、既婚子供無し、就学前の子供有り、学童有り、就学前の子供と学童有りと比較したところ、就学前の子供と学童が共に有る群が、いろいろ、疲労感、不安感、抑うつ感で未婚群に対して有意に高得点であり、育児・家事の影響がうかがわれた。2回の調査の間の5年間に女性パート職員では要求度も有意に増えているが仕事のコントロールも増えていることが示されている<sup>12)</sup>。いわゆる「仕事のストレス判定図」を2002年の調査結果から導くと、3595名の女性（若干の正規を含む）の量的負担は33.9とかなり高いがコントロールも高くその比は98に落ち着き、更には同僚の支援がとても高く、総合健康リスクが88と良い値になっていた（第78回日本産業衛生学会総会シンポジウム「これから産業保健と労務管理」で報告）。このことは、パート労働者をも重要な産業保健の対象としてきたみやぎ生協と我々産業保健スタッフの位置づけの正しさが示されたように思われる。

#### パート労働者に増す責任の大きさー「エキスパート」の現状

対象とした事業所での非正規職員は4時間から6時間パートが主体であるが、2002年に8時間働きかなりの責任を有する「エキスパート」制が導入された。その内の一人が劉肩腕障害で治療中に、強い精神的負担を訴え退職に至ったことから安全衛生委員会の議を経てアンケート調査を実施した。17項目からなる設問表に無記名、密閉で回収し我々が集計した。調査対象は141名、回収数は106名（回収率は75%）、「決断理由」は働き甲斐、給料アップ、長時間労働可能の順であった。「業務の支援」では、同僚・上司の支援がない人はそれぞれ32%、49%であった。「ストレスを

感じているか」では、少しとまあまあとかなりを合わせると約 95%とほぼ全員であった。「健康影響」は、不健康になった 42%、変わらない 50%で健康になった人はいなかった。家庭生活への影響は 68%であった。「1 回以上やめようと思ったことがある」は 55%であった。予想通り本制度に対してはマイナス面が多く現れたが、反面「やりがいを感じている」では、まあまあとかなりを合わせると 64%と高率であったことは注目される(第 46 回日本産業衛生学会産業精神衛生研究会報告)。

おわりに

パート労働者やアルバイト等非正規職員は年々増加し現在 1200 万人を越すとされる。産業保健上の大きな問題は、産業医や産業看護職の対象から多くの場合外されていることである。このことは 2004 年 10 月大阪で開催された第 14 回産業医・産業看護全国協議会でのリレーワークショップ「(産業医部会・産業看護部会・産業技術部会共催)」でのフロア発言でも多数出されている。そうした実情を反映してパート労働者の健康実態や産業保健面の問題点・課題に関する報告は極めて少ない。共同研究グループの小林がみやぎ生協のパート女性労働者における仕事のストレスと虚血性疾患のリスクファクターを解析して報告しているが<sup>13, 14)</sup>、世界中でストレス調査がかなり実施されてきているがやはりパート労働者を対象とした成績は少ないことに触れている。我々が入手した欧米での報告の中でいくつかの特徴を紹介すると、ベナヴァイズらはヨーロッパ 15 カ国の労働者 15146 名を対象に雇用形態と健康状態との関連を調査し、不安定な雇用労働者や少数のみの労働者を雇用をしている経営者、自営業者はより不健康であること、フルタイム労働者はパート

タイム労働者に比して不健康であるとしている<sup>15)</sup>。スーザンらはアメリカの労働者 2048 名対象に雇用形態や仕事のストレスと精神的・身体的健康との関連を調査し、裁量度が高いこと、技術活用が高いこと、負荷が少ないこと、自営業であること、1 時間 17 ドル以下の賃金であることと共にパートタイムであることも精神的・身体的健康に良い、という結果を報告している<sup>16)</sup>。ケヴィンらはカナダ女性労働者 998 名を対象に作業形態と仕事のストレスと健康度の関連を検討し、作業時間の柔軟性と共にパートタイムのように労働時間を削減すると仕事の過重負荷が減り健康度が高まったと報告している<sup>17)</sup>。これらの論文はいずれもパート労働者に着目していて極めて興味深い、その結果は正規職員に比して健康・健康度は良いというものであった。しかしそれはより長く負担が掛かっている(正規)労働者との比較においてであり、逆に長時間労働・過重負担の健康影響を強く示唆していることを意味している。よって、我々の対象のように家事・育児負担を有しつつ夜勤労働や正規労働者に近い時間と責任を負っているパート労働者でも同様に健康度が高いということにはならない。

本報では、この 10 年余り産業医・産業保健スタッフとしてパート労働者を対象にして取り組んできたみやぎ生協での産業保健活動から生まれた成績をテーマ毎に概括した。今後は我国においても不可避免的にパート労働者を始めとする非正規労働者の産業保健に関する調査や解析が活発にならざるを得ないと思われるので、これまでの成績を踏まえ一層の取り組みを続けていきたい。

付記：本論はこれまでの取り組みの概括を目的としている。そのため、データは、割愛した。

文献

- 1) 広瀬俊雄、町田光子、大竹康彦、「ある食品工場における夜勤労働者の健康障害に関する調査報告(第 2 報 - 4 年間の推移)」第 60 回日本産業衛生学会総会講演集 279, 1987
- 2) 広瀬俊雄、町田光子、大竹康彦、「惣菜工場にみる女子労働者の夜勤労働の健康影響について」第 60 回日本産業衛生学会総会講演集 178, 1991
- 3) 広瀬俊雄、「惣菜工場に働く女子労働者における生活実態、健康障害 - 24 時間心電図、24 時間血圧計

- を含む循環器系を中心に)」第 50 回日本公衆衛生学会総会講演集 33:930, 1991
- 4) 広瀬俊雄、町田光子、大竹康彦、「惣菜工場に見る女子労働者の夜勤労働の健康影響について(第 2 報 - 8 ヶ月健診、24 時間血圧計を中心に)」第 61 回日本産業衛生学会総会講演集 213, 1992
- 5) 広瀬俊雄、大竹康彦、町田光子、「ある食品工場における夜勤労働の健康影響(第 5 報 - 血圧日内周期異常を中心に)」第 62 回日本産業衛生学会総会講演集 213, 1993
- 6) 広瀬俊雄、多田由美子、町田光子、尼崎ひろゑ、「長

- い拘束時間や夜勤が生活習慣や健康に与える影響 - A 生協定期、成人、夜勤者健診の検討結果 - 」産衛誌 41 巻 502, 1999
- 7) Hirose T. Tada Y. Hasegawa M. Effects of shift changes on female workers at a dish factory. *J Human Ergol.* 30(1-2):339-343, 2001
- 8) Hirose T. An Occupational health physician's report on the improvement in the sleeping conditions of night shift workers. *Industrial Health* 43, 2005 (in press)
- 9) 多田由美子、広瀬俊雄、「惣菜工場の女子夜勤労働者における疲労と睡眠障害」産衛誌 45 巻 481, 2003
- 10) 多田由美子、広瀬俊雄、町田光子、尼崎ひろゑ、「ある生協労働者の JCQ/NIOSH 調査票による健康実態について(その 2) - 女子正規職員及びパート職員 - 」産衛誌 42 巻 649, 2000
- 11) 熊谷潤子、多田由美子、広瀬俊雄、町田光子、三木明子、「ある生協労働者の JCQ/NIOSH 調査票による健康実態について(その 4) - 女子パート職員の診断書にみる健康障害との関連 - 産衛誌 43 巻 33, 2001
- 12) 小林由佳、広瀬俊雄、多田由美子、堤明純、川上憲人、「職業性ストレスの変化：みやぎ生協での年間の追跡調査」産衛誌 46 巻 419, 2004
- 13) 小林由佳、広瀬俊雄、多田由美子、堤明純、川上憲人、「パート女性における仕事のストレスと虚血性疾患のリスクファクターとの関連 - みやぎ生協ストレス調査から - 」産業ストレス誌 11 (1) 75, 2003
- 14) Kobayashi Y. Hirose T. Tada Y. Tsutsumi A. and Kawakami N. Relationship between Two Job Stress Models and Coronary Risk factors among Japanese Part-time Female Employees of a Retail Company. *J Occup Health* 47:201-210,2005
- 15) Benavides FG. Benach J. Diez-Roux AV. Roman C. How do types of employment relate to health indicators? Findings from the second European survey on working conditions. *J Epidemiol Community Health.* 54(7): 494-501, 2000
- 16) Ettner SL. Grzywacz JG. Workers' perceptions of how jobs affect health: a social ecological perspective. *J Occup Health Psych.* 6(2):101-113, 2001
- 17) Kelloway EK. Gottlieb BH. The effect of alternative work arrangements on women's well-being: a demand-control model. *Women's Health.* 4(1):1-18, 1998.